



2000年よりサーバー集中や基幹システムの改築を開始

工業用のプラスチック部材およびゴム部材の製造・販売を行っているアトライズヨドガワは、従来、拠点ごとに設置していたAS/400の運用負荷問題の解決と得意先への短納期を実現するため、2000年よりサーバーの本社集中・統合や基幹業務アプリケーションの改築を進め、2002年にIBMの基幹業務パッケージ「iSeries Site」(旧GUI-PACK)による基幹業務アプリケーションの全社統一を果たした。システム部グループリーダーの宮下芳典氏は、改築前のシステムの課題点を次のように

まとめる。

「弊社では従来、大きな事業所ごとにAS/400を導入し、拠点別のやり方で営業活動と仕入業務を行っていました。しかし、月次の締め短期化や全社的な適正在庫が求められるようになると、集約作業や作業時間の負荷が問題となり、システムの不備が目立つようになりました。一方、得意先の購買リードタイムの短期化に伴って、弊社への発注も出荷2日前となるケースも出始め、システム面での対応が急務となりました。そこで旧来システムの全面的な見直しを行い、最終的にサーバーの統合と基幹業務アプリケーションの全社統一および各アプリケーション間のシームレス

な連携を実現しました」

導入スケジュールとiSeries Site採用の理由

導入は、次のようなスケジュールで進められた。

- 2000年 AS/400モデル720を2セット設置。販売・購買・財務・経理・人事・給与の各システムを基幹系サーバーで、情報系をドミノサーバーで運用開始。
- 2000年 財務・経理システムと人事・給与システムをiSeries Siteに置き換え。電子メール、Webサービス、ノーツベースのワークフローをスタート。

株式会社 アトライズ ヨドガワ

COMPANY PROFILE

- 設立: 1951年
- 本社: 大阪府吹田市
- 資本金: 1億5000万円
- 従業員数: 360名
- 売上高: 251億円
- 業務内容: 工業用プラスチック部材、工業用ゴム部材の製造・販売
- http://www.atriyz.co.jp/

iSeries Site 生産管理システムで短納期を実現

基幹系システムをiSeries Siteでシームレスに統合

Point

- 2000年よりサーバー集中や基幹アプリケーションの改築に着手
- 基幹システムをiSeries Siteで統一しERPシステム的な連携を実現
- 生産系のiSeries Siteで短納期を実現
- 従来の十数億円規模の在庫を約半分に圧縮

宮下芳典氏

システム部 グループリーダー

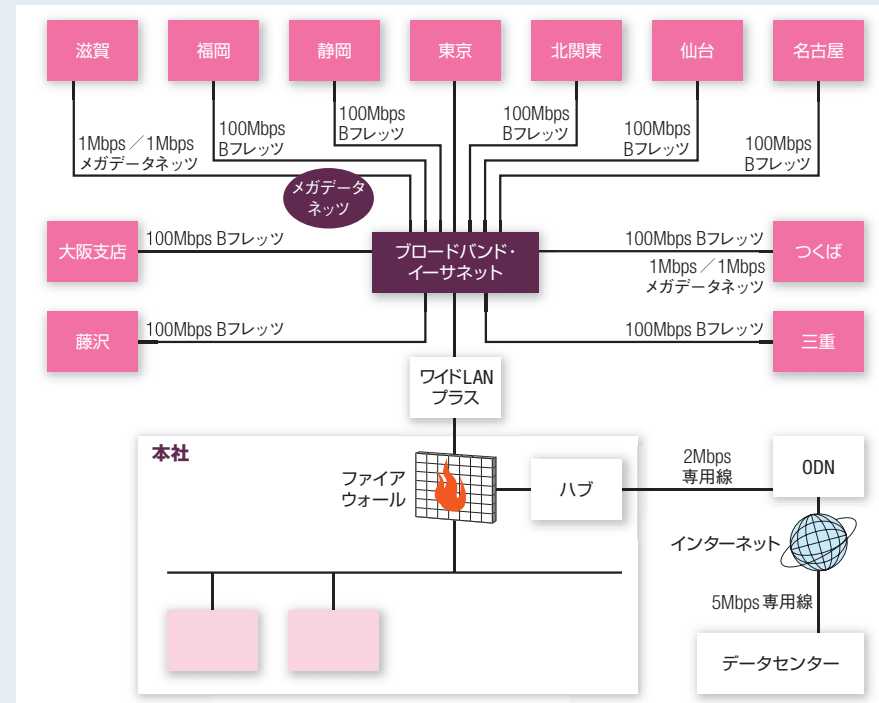


- 2001年 本社・基幹事業所に分散設置していたAS/400を本社のAS/400へ統合。全社ネットワークをフレームリレー網で構築。
- 2001年 販売・購買・生産システムをiSeries Site統合型生産管理システムへ置き換える作業を開始。
- 2002年 販売・購買・生産システムのiSeries Siteへの置き換えを終了。並行して、業務手順の標準化作業も完了。基幹業務システムのiSeries Siteによる統一が完成し、シームレスな連携を実現。
- 2002年 購買Web EDIシステムをスタート。
- 2003年 製造原価管理システムをスタート。
- 2004年 iSeriesモデル810を導入。既存の2台のサーバーを統合。
- 2005年 全社ネットワークをブロードバンド・イーサネットでも再構築。

上記を見ると、それ以前に財務・経理系などでiSeries Siteを利用していたので2001年の販売・購買・生産システムのiSeries Siteへの切り替えが、必然的な流れのように映るかもしれないが、宮下氏によると「結果的にそのような形になったが、生産系については半年をかけて一から検討を加えた」という。

生産系にiSeries Siteを採用した理由は、次のとおりだ。

「短納期の要請に応えるためには、得意先から内示データを受け取った段階で部品の先行手配を行うことが必要で、また、得意先からの受注データを基に改めて生産計画を立てるのではなく、受注データをそのまま生産計画とする仕組みが不可欠になります。iSeries Site統合型生産管理システムは、これらを可能にするMRPとリピート製番のそれぞれの手配に対応し、経理システム



図表 アトライズ ヨドガワのデータ系ネットワーク構成図

とのインターフェースが取れる点を評価しました。また、弊社の業務に適用するにはパッケージのままでは使えないので、カスタマイズやシステムの拡張を柔軟に行える点も評価しました」

十数億円規模の在庫を約半分にまで縮小

同社は、iSeriesの大本といえる「システム/3」以来のIBMユーザーで、システム/34、同38、AS/400と使い続けてきた。その利用経験やスキルの蓄積も有力な判断材料であったが、改めて「業務に最適なシステム」という観点で、iSeries Siteを選択したという。

カスタマイズや機能追加したのは、原価管理のための稼働実績・検査実績データの取り込みとWeb-EDI調達である。Web-EDIは、資材調達先との間で、受注状況を開示し、それに基づく資材の納期確認や出荷報告／出荷実績のやり取りをインターネットベースで行うものだが、「これにより資材調達のスピードアップ化と適正在庫化の精度

を上げることが可能になった」と宮下氏は総括する。今回のiSeries SiteとWeb-EDIによって、「従来の十数億円規模の在庫を約半分にまで縮小することができた」という。

同社は現在、さらなる在庫管理の適正化と資材発注・購買の精度の向上、得意先・仕入先との情報連携のスピードアップを図る取り組みを開始している。iSeries Siteは、同社の次なるステップのシステム基盤である。

プロジェクトの進捗

2000	AS/400モデル720を2セット導入。販売・購買・財務・経理・人事・給与の各システムを基幹系サーバーで、情報系をドミノサーバーで運用開始
2000	財務・経理システムと人事・給与システムをiSeries Siteに置き換え
2001	本社・基幹事業所のAS/400を本社AS/400へ統合
2002	販売・購買・生産システムをiSeries Siteへリプレース
2002	購買Web EDIシステム稼働開始
2003	製造原価管理システム稼働開始
2004	iSeriesモデル810を導入。既存の2台のサーバーを統合
2006	購買システムのバージョンアップ予定